

どんど焼きが地域コミュニティの場に！

令和2年1月13日成人の日に静岡市葵区の清水山(きよみずやま)公園にて熊野神社どんど焼きが行われました。どんど焼きの由来は左義長(さぎちょう)と呼ばれる平安時代から伝わる宮中行事で、正月15日の夜に正月飾りや御札などを焚き上げるものでした。これが民間に広く伝わり今のどんど焼きに至るとの説があります。

集まったのは清水山公園のある音羽町と、隣接した春日1丁目、2丁目、2丁目2区、3丁目、横田町3区の6自治会です。私たち自治会役員は朝7時に集合し、男性陣は神事の設営(写真①)、婦人部は来場者にふるまう豚汁やお汁粉の支度(写真②)で大忙しです。



①神事の設営



②婦人部の支度

9時から熊野神社の宮司さんによる神事が始まりました。自治会役員や婦人部の皆さんも宮司さんにならい拝礼します。(写真③④)



③神事



④

神事が終わると早速、火をつけます。清水山公園は街の中にあるため、火の粉が周囲に飛び散らないよう少しずつ燃やしていきます。(写真⑤⑥⑦⑧)



⑤火をつける



⑥



この日は晴天に恵まれ、多く<sup>⑦</sup>の人出で賑わいました。婦人部がふるまう豚汁やお汁粉は大人気で、長い列ができました。(写真⑨⑩)



⑨多くの人出



⑩大人気!

つきたてのお餅を小さくまわめてきな粉をまぶしたり、お汁粉にして出します。(写真⑪⑫)



⑪つきたてのお餅



⑫きな粉餅やお汁粉

お餅はすぐ横で杵と臼でつきます。普段したことのない餅つきで大人も子供もとても楽しそう！(写真⑬⑭)



⑬餅つき



⑭子供さんも

11時頃には用意した豚汁やお汁粉などすべてが完食となり、婦人部の皆さんも満ち足りた笑顔です！どんど焼きは最後にしめ縄をはっていた竹も燃やして終了です。(写真⑮)  
新春の穏やかな日差しの中で、町内の人たちが集まり、伝統行事を楽しみながら今年1年の無病息災をお祈りしました。



⑮どんど焼きの締め



⑯自治会長の横山さん

当番町である春日3丁目の自治会長、横山さん(写真⑯)はこの日のために、備品の準備から各種手配等で多忙を極めました。こうした地域の伝統行事を維持継続していくためには自治会や子供会、各種団体等の理解、協力がなければ成り立ちません。それには横山さんのようなリーダーが必要ですし、将来を担う若手にも是非引き継いでいてもらいたいものです。

町内の老若男女が集い、皆で楽しめるどんど焼きがコミュニティの場となり、地域の連帯を深め、防災の強化につながることを期待しています。

取材：静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章